



団らんのひととき

'25年3月発行
Vol.129



毎月第2木曜日開催
はなさくサロン

今号の
特集

うごきで伝えるコミュニケーション
手話体験教室

1月9日、あたたかい昼下がり。福祉センターやすらぎの里にて、はなさくサロンが開かれました。

「今年もよろしく」「また会えたね」と、参加者のみなさんはお話を交えながら、将棋やレクリエーション、手遊びなど思い思いの時間を過ごされます。

地区の垣根も越えて、一緒に過ごす束の間の団らん。他愛のないひとときを誰かと過ごせる幸せをぎゅっと感じさせてくれます。

サロンが開きになるころまで、参加者のみなさんのお話は尽きません。

「楽しかったね」「また会おうね」自然と結ばれるひとの輪がまたひとつ、生まれます。



うごきで伝える

コミュニケーション

手話体験教室

2月8日、福祉センターにて令和6年度ボランティア養成講座を開催しました。

今回の講座は、「手話体験教室」。手話を学ぶことでのう者（聴覚障害者）への理解を深め、潜在するボランティアの発掘と福祉活動に関心を持つ方を実際の活動に結び付けることを目的に、広く住民の皆さんに声かけをしました。

おかげさまで、たくさんの方に参加いただき、ボランティア講座は大盛況に終わりました。

手話のほかにも、言葉以外の方法を使って相手とコミュニケーションを取る「伝言ゲーム」を行いました。身振り手振り、もちろん表情を豊かに使って相手に気持ちや物事を伝える楽しさや難しさを体感しました。

笑顔でコミュニケーション

「手話体験教室」では、山武郡市聴覚障害者協会の皆さんを講師にお迎えをして、手話の基本的なあいさつや、コミュニケーション方法について学びました。

講師のみなさんはなるほど、表情豊かだにこやかに手話を介して気持ちを伝えてくれます。参加者のみなさんも、手話通訳の方の力を借りて講師の皆さんと手話で交流。最初は緊張して表情がこわばっていた方も、講師のみなさんのコミカル

な表情や仕草で自然と笑顔に。ぐっと、心の距離が近くなったように感じます。

「手話は基本、笑顔ではっきりと」「ごめんなさい、は真面目な顔で気持ちを込めて」講師の手話を通して、私たちが普段使っている会話にも共通するような大切なコミュニケーション要素が、不思議と見えてきます。

身近で共通のバリアフリー

「耳の聞こえない人って、どうやって生活しているの？」



▲山武郡市聴覚障害者協会の4人の表情豊かな手話対談に参加者のみなさんも興味津々
左から、講師の葛岡さん、落合さん、月崎さん、鈴木さん



▲ひとつ手話を知るたび「へー!」と感動

普段、私たちが当たり前にこなしている日常生活を、ろう者の方も同じようにこなします。

朝、起きる時は私たちが目覚まし時計やスマートフォンのアラームで起きるように、ろう者の方も振動で起こしてくれる時計などを活用して目覚めたりもします。

「耳が聞こえなくても、電車にも乗りますし、車の運転だってできますよ」と、講師のみなさん。

「昔は、電車に乗るときは降りる駅までの駅の順番を覚えたり、車窓から見える景色を見て降りていました。が、現在は次の駅がどこか表示してくれる車内電光掲示板がついた電車が増えた

ので便利になりましたね」

電車内に取り付けられた電光掲示板は、私たちも使うとても身近な存在ですよね。

「車の運転は、周囲を注意深く確認して、前の車の動きをよく見て運転します」

これも、私たちが日ごろ運転するときにかけていることと同じ。ちなみに、ろう者の方の多くはとも視力が良く、観察力も卓越しているそうです。

コロナ禍での生活と発見

「コロナ禍では、マスクをつけるのが当たり前の生活になりました。耳が聞こえない私たちにとっては、みんながマスクをつけることで、表情が読み取りづらく



▲交流会ではひとりずつ手話で自己紹介

なり、コミュニケーションをとるのがたいへんだったんです」

新型コロナウイルス感染症の影響は、ろう者の方々にとっても衝撃的なものでした。

「コンビニで買い物をしたとき、店員さんはマスクをしていて表情が読み取れなかった。でも、レジのカウンターにはね、指差しして意思を伝えられる指差しシートが設置されていて昔より便利になったなと思っていました」

コロナ禍という環境下でも、間違いなくバリアフリーが浸透している社会を体感する出来事です。

手話は一つの手段

「ある日、耳が聞こえなくなったら」

耳が聞こえないということとを他人事にせず、自分事に置き換えてみることで、見えてくるものがあります。

手話は特別なツールではなく、一つのコミュニケーションの手段として私たちの生活に存在するのです。講座を通して、手話がより身近な存在になりました。



いきがいによりそいます 福祉センターでの活動

ふくし
街角
コレクション



福祉センターやすらぎの里では、様々な団体・サークルが訪れます。
今回は、15年以上福祉センターを利用いただいている芝山手打ちそばの会の活動にお邪魔しました。
芝山手打ちそばの会は会員30名から成るそば打ち団体。福祉センターの調理室でそば打ち初心者の方から20年以上の大ベテランまで和気あいあいとそば打ちに打ち込みます。
自分で打って、自分で茹でた手打ちそばの味は格別。どんな老舗のそばにだって負けません。
福祉センターは、いろいろな団体・サークルの活動に寄り添います。趣味やコミュニティの活動の場にぜひ、ご利用ください。

地域の中や家庭で見かけた・起こった“ちょっといい話”を社協にお寄せください。

いんふおめーしょん

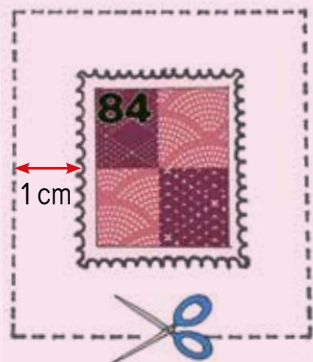
使用済み切手ありませんか？

「集めて・届ける」活動で地域福祉を応援しませんか？
社会福祉協議会では使用済みの切手を集めています。
ご家庭や職場で使用済み切手がございましたら、ぜひご協力ください。

芝山町社会福祉協議会 ☎ 0479-78-0850

芝山町社会福祉協議会では、役職の交代により、高根完評議員が退任され、1月31日より**根本雅臣氏**が評議員に就任されました。高根完様には、在任中芝山町の福祉のためご尽力いただきました。

人事



1 cmほど余白を残して
台紙ごと切り取ってください

みんなの力があつまって 赤い羽根共同募金

昨年10月1日から始まった令和6年度共同募金運動は1月31日現在、下記の通りのご協力をいただいております。

お寄せいただいたご浄財のうち、一般募金は全額、千葉県共同募金会へ送金いたします。また、歳末たすけあい募金は町内の対象となる方々に「歳末お見舞金」として12月にお届けしました。

共同募金にお寄せいただいたみなさまの力は、地域のために活かされます。



募金総額 **2,047,886円**

一般募金	1,651,285円
歳末たすけあい募金	396,601円



(5)

みんなでみんなのしあわせを

令和7年3月1日発行



▲子ども用車いすもあります

社会福祉協議会が取り組む、芝山町の福祉活動について紹介するこのコーナー。今回は「日常生活用具貸付事業」をピックアップ。

社協日誌

まごころ

その11

通信

事業名：日常生活用具貸付事業

お問い合わせは、芝山町社会福祉協議会にお気軽にお問い合わせください。
☎0479(78)0850

- ・車いす（普通型）
- ・車いす（子ども用）
- ・車いす（介護用）
- ・車いす用スロープ
- ・シルバーカー

貸出できる
日常生活用具

日常生活用具の貸出希望の方は事前にお電話をいただき、芝山町社会福祉協議会窓口にて、申請書等一式に必要事項を記入いただいてから、最長3か月まで利用できます。ただし、原則として貸出の延長はできません。

「日常生活用具貸付事業」は、町内在住の在宅の方に対し、車いすやシルバーカーなどの日常生活用具の貸付を行い、日常生活を援助することを目的とした事業です。

思いがけない突然のケガで車いすを利用したい、普段出歩くことが少ない高齢者の方へのお出かけの補助にシルバーカーを使いたいなど、一時的に日常生活用具を貸し出します。

福祉センターで実施している「いきいきライフ調理実習教室」は、減塩・低カロリーメニューで、生活習慣病の予防と改善をねらいとしています。その秘伝のレシピを講師の栄養士がご紹介！



チョコレートケーキ

【作り方】

- ① クルミを使用する場合は、160℃で10分ローストして、レーズン大に刻む。
- ② 薄力粉、ココア、ベーキングパウダーは合わせてふるっておく。
- ③ チョコレート、バターはボウルに入れ、湯煎で溶かしておく。
- ④ ボウルに卵とグラニュー糖を加え、ホイッパーでよく混ぜる。
- ⑤ ④に③を加え、よく混ぜる。
- ⑥ ②の粉類を加え、ゴムベラで混ぜる。
- ⑦ オレンジピール（或いはクルミ）を加え、型に流す。
- ⑧ オーブンで170℃約10分焼成する。

材料

(8個分)

スイートチョコ	50g
バター(無塩)	40g
グラニュー糖	30g
卵	1個
薄力粉	40g
純ココア	10g
ベーキングパウダー	小さじ1/4
オレンジピール (クルミ)	20g (20g)
粉砂糖	適宜

ワンポイント

チョコレートの風味にオレンジピールのさわやかさ、少し大人な味わいが魅力です。オレンジ以外の柑橘類ピールも合います。ピールがなくても、クルミなどナッツ類と合わせれば、充分深みができます。生地はダマにならないようによく混ぜましょう。



参加申込み・お問い合わせは福祉センターまで TEL.0479-78-0294

